

布佐神楽保存会

(岩手県一関市)



出演日時：11/1 11:30～ 演目：楠公(楠木正成)
なんこう くすのきまさしげ

布佐神楽は、岩手県南、宮城県北部に継承されているいわゆる「南部神楽」のひとつです。布佐神楽の演目は式舞と神代記、劇舞に分けられます。本日は、神々の伝説や英雄物語などの劇舞のうちから演目「楠公」楠木正成を上演させていただきます。劇舞は「段ごと」ともよばれます、舞を中心とする式舞の演目とは対照的に、舞手みずから独特の節回しでセリフをうたいながら物語が進行していきます。

演目「楠公」は今から690年の昔、日本の武士たちは南朝と北朝に別れて戦いにあけていていました。楠木正成は南朝側で最も活躍した武将といわれています。対する北朝側の武士をまとめていたのが、足利尊氏あしかがたかうじです。正成と尊氏は何度も戦いましたが、時代の流れは尊氏に味方し、楠木正成率いる南朝側は苦戦をしいられて最後の決戦の場、湊川の戦いで、正成はついに敗れ去りました。湊川での戦いの直前、敗れることを覚悟した正成は10才の長男、正行まさつらを呼び寄せて、遺言を告げます。正行は、父と共に戦場に行って戦うと言い出しますが、正成は、自分が敗れた後に、再び天下を取るようにと諭します。激しい湊川の戦いで尊氏の軍勢に正成方は敗北します。正成と弟、正季まさすえは戦場から民家に向け入り、最期を迎えるのでした。